

LIVING SCIENCE NOW

CONTENTS

Now Interview P.1、P.2
パラグアイと日本の架け橋として5年間

- ゲスト 田岡 功 氏
- 聞き手 今野 由梨

原宿サロン/8月例会P.3
真壁 昭夫 氏

メンバーズ・プレゼンテーションP.4
石橋 國鷹 氏

食の生活110番P.4

Now Interview

パラグアイと日本の架け橋として5年間 ～旭日大綬章ご受章おめでとうございます～

ゲスト 田岡功 氏
(パラグアイ共和国 特命全権大使)

聞き手 今野由梨
(ダイヤル・サービス株式会社 社長)



日本生まれの海外移住者として初めて駐日大使になられた、パラグアイ共和国の田岡大使に、祖国に赴任された5年間を振り返りお話しいただきました。

今野 ご帰国直前のお忙しいところ、本日はお時間を頂きましてありがとうございます。

田岡 いいえ、大変お世話になりました。10月6日に帰国しますが、長い間のお付き合いになりましたねえ。

今野 大使に就任されて5年と1ヶ月、その大半をお付き合いいただきありがとうございました。5年経ってお帰りになるのはどんなお気持ちですか。

田岡 孫や家族や多くの友人・知人が待っていますので、半分は嬉しいという気持ちです。一方で、あと1、2年いればまた違った目で、もっと仕事がやれるかなという気もしますね。

今野 この間一番やったなど、田岡大使がご自分で思われることは何ですか。

田岡 私の出発点は移民であり、外国で日本人であるという意識を持ってがんばってきました。だから移住地の為、パラグアイの為になること、日本との関係で重要なことをやりたいと思って集中して来ました。それが結果となって現れたと思います。道路、電話、電化など願い続けたことが実現するたびに嬉しく思いました。



今野 私達から見ると、田岡大使のお陰でパラグアイという国が、非常に身近に感じられるようになりました。日本人の移民が遠い国で立派な活躍をしておられることを知り、私達も何かお役に立ちたいという気持ちを日本人の心に植えつけられたのは、大使の大きい功績だと思います。

田岡 私はもともと外交官ではないので、喜んで一般の方々と接しました。パラグアイは、日本の移民政策の中で、成功した地域でしょう。移住地が成長して市になり、私はその市長を務めました。そこで、日系2世に対する日本語教育を大事にし、日本文化の良いところを残したいという1世の人たちの思いを実現できたと思います。小学校の6年生で日本語の1級検定試験に7、8割以上受かる教育をしています。彼らが日本に留学生、研修生、労働者として来ても、言葉で不自由することは無いと思います。



今野 今年私たちがパラグアイに行ったとき、在住の日本人女性の方々がお昼のパーティーにご招待くださり、全部日本食だったので感動いたしました。お味が、母や祖母の味と全く変わっていません。

田岡 苦勞しながら開拓をする中で、昔の慣習が止まったまま引き継がれて、自然と残ったといえるでしょう。良い面も、悪い面もあります。時代は変わりつつありますが、日本人の血を引く若者には、日本語を学び日本を知り日本文化を受け継いで欲しいと思います。

今野 皆さん、本当に温かくもてなしてくださいました。

田岡 入植当時の苦勞を笑い話として皆さんにお話しできる時代が来たなと思います。食うや食わずの時代には、日本の移民政策の失敗だと責任を追及するような意見が多く出ましたが、農協ができ、農地が広がり、収入がふえて生活が良くなると、自分達の努力が必要だと思い、また努力が報われたと思うようになりました。移住から10年位して日本経済が良くなり、日本から色々な支援が続きました。これが日本の政策としての移住地を完成させたと思います。

今野 皆さんのご努力が実を結び、今では例えば岐阜県と食料供給協定を結んでおられるそうですね。

田岡 私が日系農協中央会の会長をしているとき、当時の梶原岐阜県知事が、広大な土地を見られて、将来日本の食料を海外に求めるとすればここだと言われ、(株)ギアリンクスの中田社長が中心になって株主を集め、広大な土地

を買われました。それが契機で遺伝子組換え無しの大豆を、優先的に岐阜県に輸出させてもらっています。将来に向けて大きな道ができてきていると思います。

今野 一つの県が、またベンチャー企業が中心となって、大きな志を持って将来に備えようとしていることに感動して、今年大豆が実っているところを見て来ました。本当に感動いたしました。大使は間も無くご帰国されますが、ますます両国の架け橋としてご活躍されることを期待しています。

田岡 大使の職を辞して自由な民間人になったら、ビジネスの道作りやパイプ役が私の次の仕事だと思います。ギアリンクスの中田社長が言われるように、「日系人が作った大豆は、日本の国民が作ったものと同じ扱いにする」ことができればよいと思います。ただ、大量の大豆を日本と直接取引するには、パラグアイの農家が、遺伝子組換えでないものを大量に植えつける必要があります。パラグアイには海が無いので、アルゼンチン、ウルグアイ又はブラジルの港にサイロを建てるのが課題です。日本の企業や国と協議しないとイケません。

今野 益々期待しております。諸々の総合的な実績、貢献に対して、日本国天皇から旭日大綬章をお受けになりました。本当におめでとうございました。

田岡 ありがとうございます。私は日本とパラグアイという二つの母国を抱えております。日本人として天皇から勲章を受章できるというのは生涯最高の名誉だと思います。パラグアイは日本の食糧保証問題など期待に応えるだけの環境があると思います。是非日本側のパイプ役をしていただけたら私もお期待に沿いたいと思います。



今野 折角いただいた貴重なご縁ですので、努力してパイプ役を続けさせていただきます。今後のご活躍をお祈りします。